

命を語ろう

～神戸・新潟中越・東京を結ぶ市民の集い～

2005年3月5日（土）13時半～17時 神戸酒心館ホール

参加費：無料（どなたでも参加いただけます）



主催：障がい者から学ぶ会・NPO法人「海から海へ」

後援：神戸市、神戸市教育委員会、コムケアセンター
神戸市中央区社会福祉協議会

協賛：住友生命社会福祉事業団、東レ株式会社

問い合わせ先：NPO法人「海から海へ」理事・「障がい者から学ぶ会」代表

本間康浩 090-6074-5548

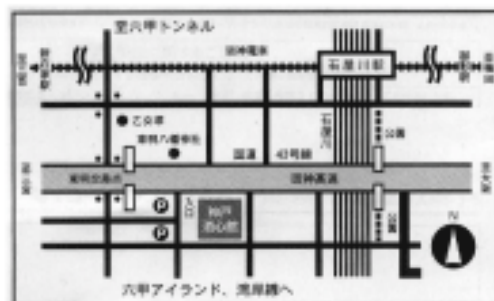
座談会 命を語ろう

～神戸・新潟中越・東京を結ぶ市民の集い～

日時：2005年3月5日（土）13時半～17時

場所：神戸酒心館ホール（神戸市東灘区御影塚町1丁目8-17）

<http://www.shushinkan.co.jp/>



【プログラム】 司会：本間康浩 手話：田中義一

第一部 神戸・新潟中越での経験 ～自然といのち～（13:40～14:40）

黒岩秩子氏に新潟中越大地震により地域社会の受けた影響とそれへの対応についての現況を報告していただきます。松村敏明氏に阪神大震災以来の神戸での経験（特に障がい者の日常生活支援）と新潟中越大地震へのメッセージを語っていただきます。小出智子氏には震災時に受けた心の痛みからの立ち直りについて体験を語っていただきます。

第二部 障がい者を中心とした地域の創生 ～アート・こころ・いのち～（14:55～15:55）

阿部愛子氏に東京都調布市での「アートとこころを中心にしたまち創り～出前ミュージアム～」について現状・将来について、津田英二氏には灘区に立ち上げ準備中の「インタラクティブ・アート・ミュージアム」計画について話していただきます。

第三部 自由意見交換 ～いのちをつなぐ～（16:10～17:00）

発話者を中心に参加者全員で各地域でのコミュニティ創りの現実と今後の展望、そのための協力について自由に話し合い、交流を深めます。

【発話者プロフィール】

黒岩秩子（くろいわ ちづこ）

1940年 名古屋で生まれる。
1963年 東京大学理学部数学科卒業後、都内で教諭、保育士。
1971年 新潟県南魚沼郡大和町清佐にて保育士。
2001年 繰り上げ当選で参議院議員5ヶ月間。
現在、講演、執筆活動の他、新潟で被災地救援活動に携わっている。
著書「7人の母、国会に行く」（愛地書館）
「未来を育む大地から」（径書房） 他

松村敏明（まつむら としあき）

1940年 滋賀県甲賀郡で生まれる。
1963年より29年間中学校教師。
現在 神戸・心身障害者をもつ兄弟姉妹の会代表、
社会福祉法人「えんびつの家」理事長
著書「障害児と共に辿りつつ生きる」（明治図書）
「障害児の兄として教師として」（明石書店）

阿部愛子（あべ あいこ）

1950年 東京で生まれる。
2004年 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程修了。
現在、NPO法人「海から海へ」こころとふくしの研究所相談室室長、
ブレみずき学芸員。障がいをもつ娘の「みずき美術館」設立準備中。
著書「絵はコミュニケーション」（燎葉出版社）
論文「知的障害をもつ子どもの親の心理変容」 他

小出智子（こいで ともこ）

1956年 京都で生まれる。以来、引越11回。
現在、神戸市東灘区在住。主婦。
阪神大震災で被災。3年後、けい痛で入院。5年後完治。
健康に過ごせている日常がこよなく好き。
現在、カウンセリングマインドを勉強中。

津田英二（つだ えいじ）

学生時代の知的障害のある人たちとの関わりをきっかけに、障害のある人たちの生涯学習を研究・教育テーマとして取り組むようになる。
現在、神戸大学発達科学部に勤務。知的障害のある人たちの本人活動支援や、本人とその家族が地域で安心して暮らしていくための自助活動に関わっている。この4月から、神戸大学総合人間科学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センタースタッフとしての、旧灘区役所跡地を活用したコミュニティとの連携実践を模索中。
著書『生涯学習の支援論』（シリーズ生涯学習社会における社会教育第5巻）学文社 『この街がフィールド』れんが書房新社

【海から海への紹介】

障がいをもつ人から愛される豊富なものの存在を社会が認識し、人々がそれらを宝物として共有することを目的とし、2003年10月設立。文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、および、カウンセリングなどの支援活動を行っている。

〒182-0024 東京都調布市布田1-43-3-108

Tel&Fax 0424-41-2958

office@umi.or.jp <http://umi.or.jp>